

## PRODUCT INFORMATION

## 化粧品用豚プラセンタエキス 『豚プラセンタエキス PF』

日本国内にて収集した豚の胎盤から抽出した「豚プラセンタエキス PF」は、化粧品用としての原料に最適です。

プラセンタエキスには、美白作用や皮膚の新陳代謝を活発にし皮膚の細胞を賦活させる等の働きがあり、機能性化粧品素材としてご利用いただけます。

## 【品質】

「豚プラセンタエキス PF」は、日本国内で育成された健康な SPF 豚の新鮮な胎盤のみを原料に使用しております。

使用する胎盤原料は、SPF 認定農場の中でも極めて品質管理・衛生管理に優れた農場を厳選して収集しています。そこから集められた胎盤は、弊社独自の製法によって有効成分を豊富に含むエキスを抽出します。

またこの製造工程においては、加熱処理（ウイルス等の不活化処理）を行っております。良い素材を、安心してご利用いただける、それが弊社の「豚プラセンタエキス PF」です。

## 【規格】

品名	豚プラセンタエキス PF	
性状	淡黄色の透明な液体で、わずかに特異なおいがある	
総窒素量	0.20%以上	
強熱残分	1.0%以下	
P H	5.5~7.0	
防腐剤	1,2HEXANEDIOL	3.250w/v%
	PHENOXYETHANOL	0.250w/v%

## 【保存】

- 直射日光や高温多湿となる場所を避け、冷暗所で保管してください。
- 開封後に保管される場合は、完全に密閉し冷暗所で保管してください。

株式会社 三共バイオケミカルズ

〒151-0053

東京都渋谷区代々木 1-55-5

TEL/FAX 03-3375-6711

豚プラセンタエキス PF 成分規格書

## Placenta Extract

本品は、ブタ *Sus scrofa* Linne var. *domesticus* Gray (*Suidae*) の胎盤を原料とし、酵素分解抽出法により得られるエキスである。

本品を定量するとき、窒素 (N:14.01) 0.01~0.40%を含む。

試験項目	規格
性状	無色～淡黄色の透明な液体で、わずかに特異なにおいがある
確認試験 (1) ニンヒドリン試験	紫色を呈する
確認試験 (2) 水酸化ナトリウム試液 及び硫酸銅溶液試験	赤紫～青紫色を呈する
純度試験 (1) 重金属	20ppm 以下
純度試験 (2) ヒ素	2ppm 以下
純度試験 (3) ホルモン	認めない
強熱残分	1.0%以下
総窒素量	0.20~0.30%
P H	5.5~7.0
一般細菌数 (生菌数)	100cfu/ml 未満
大腸菌群	陰性

# 分析試験成績書

依頼者 三共理化工業株式会社

検体名 豚プラセンタエキスPF

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木52番1号



2011年(平成23年)11月11日 当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

## 分析試験結果

分析試験項目	結果	定量下限	注	方法
アミノ酸	.....	.....	.....	.....
アルギニン	80 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
リジン	96 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
ヒスチジン	28 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
フェニルアラニン	33 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
チロシン	21 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
ロイシン	99 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
イソロイシン	37 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
メチオニン	23 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
バリン	74 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
アラニン	120 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
グリシン	172 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
プロリン	96 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
グルタミン酸	198 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
セリン	70 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
スレオニン	57 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
アスパラギン酸	128 mg/100g	.....	.....	アミノ酸自動分析法
トリプトファン	2 mg/100g	.....	.....	高速液体クロマトグラフ法
シスチン	8 mg/100g	.....	1	アミノ酸自動分析法

注1. 過キ酸酸化処理後、塩酸加水分解し測定した。

以 上

# 分析試験成績書

依頼者 三共理化工業株式会社

検体名 豚ブラセンタエキスPF

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



2011年(平成23年)11月11日 当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

## 分析試験結果

分析試験項目	結果	定量下限	注	方法
ブラセンタエキス(1)	.....	.....	1	.....
確認試験(1)	適	.....	.....	.....
確認試験(2)	適	.....	.....	.....
純度試験	.....	.....	.....	.....
重金属	適	.....	.....	.....
ヒ素	適	.....	.....	.....
ホルモン	適	.....	.....	.....
強熱残分	適(0.2%)	.....	.....	.....
含量	適(窒素0.25%)	.....	.....	.....
性状(適否の判定基準外)	.....	.....	.....	.....
色・形状	淡黄色の液	.....	.....	.....
におい	わずかに特異なにおい	.....	.....	.....
がある	.....	.....	.....	.....
一般細菌数(生菌数)	100以下/g	.....	.....	SCDLP寒天平板培養法
大腸菌群	陰性/1g	.....	.....	LB培地接種法
pH	5.8	.....	.....	ガラス電極法

注1. 医薬部外品原料規格。

以 上